



◎かいどう・としお
 1943年生まれ、岡山県で育つ。京都大学法学部卒業。71年に弁護士登録。76年に崎間昌一郎・三浦正毅と京都総合法律事務所を設立。83年京都弁護士会副会長を務める。刑事事件の弁護をはじめ、民事、家事も手がける。

京都の特性と 裁判員制度に 期待する

海藤 壽夫
 弁護士

私が京大の反戦・自由の校風にあこがれて上洛し、そのまま京都で弁護士登録してから40年になる。京都には神社仏閣が多く、宗教的風土がある。そういう地の利を活かして、犯罪者の更正へもっと熱心に取り組んでもらえば、より良い社会になっていくのではないだろうか。

新服役者の約2分の1が、また刑務所へ戻った再入所者である。こういう高い再犯率が事実として存在している。とりわけ薬物依存者の再犯率は非常に高く、中には10回以上も服役を繰り返す人がいる。こうなると本人は「出所しても、またやるのではないか」と自信をなくすし、家族も支えきれなくなってくる。そんな現状にあって、私は刑務所と社会復帰までの間にワンクッションをおく機関が必要だと感じている。こうした機関が充実すれば、再犯防止につながり、結果的に犯罪数も減るはずだ。私は薬物依存のリハビリテーションを行うダルクの活動を応援しているが、更正施設の整備充実とともに、立ち直りをうながす人的・物的協力を宗教界にも期待したい。

私は登録して以来、刑事事件にやりがいを感じ続けている。犯罪とは、ある種の極限状態での行為だ。刑罰で抑制されている行為を選び、踏み越えてしまう。そのような犯罪は、社会の自家中毒現象とも言える。健全な社会づくりには、自家中毒を起さないように新陳代謝を良くし、中毒が発生すれば治療するという循環が求められる。一方で犯罪には、制約から解放された自由の選択という面もある。だから私は、犯罪とは違う形で自由を行使する道に役立ちたい。被害者と犯罪者を対立構造で考えるのではなく、罪からの再生という視点で携わることも刑事弁護の意味だと思ふ。

私は裁判員制度に期待している。自分や身近な人がいつ被害者あるいは加害者になってもおかしくない時代だ。自らの感覚で犯罪を考えていくことの積み重ねが、社会を変えていくきっかけになるのではと思う。

従来は「お上」が裁いていたことに国民が直接関わり、責任を持つて対策を講じることができるようになれば、社会が望ましい方向に向かうのではないかと。裁判員候補者になればおのずと犯罪や人生について考えるようになり、例えば抽選にももては世の中の見方が変わるだろう。刑事司法には自白の強要や冤罪などいろいろ課題はあるものの、国民の関心が高まれば、取調べの可視化も実現され、捜査方法も是正されるのではないかと。その流れの中で、裁判員制度によって冤罪が減るのではと、私は期待している。私が生きている間に、どれだけこの制度が充実し、どのように社会が変わっていくか楽しみである。



130
 京都新聞創刊130年

企画・制作=京都新聞COM計画部



協力業社定例会の様子

ゼロの公開を支援する人々たち

ゼロは、2002年より「公開」をコンセプトに掲げ、建築現場や建築過程に留まらず、企業情報、クレーム記録、お客様アンケートの内容まで、お客様に安心してゼロとお取引いただくための様々な情報をご覧いただいております。

住宅の建築には、完成までに多くの職人の出入りや様々な設備の搬入があるため、適正な管理体制がないと、本場に品質のよい家はできません。これが、住宅業界が「クレーム産業」とも言われるゆえんです。

ゼロは、これらのクレームを少しでも減らし、お客様に気持ちよくお住まいいただける家づくりを確立するため、自社の中で厳しい品質管理体制を整えることにも、さらには、お客様自身にも厳しい目標でチェックしていただくため、「公開」を始めました。

この「公開」を徹底し、継続し続けることで、ゼロの社員のみならず、ゼロの家づくりに関わるすべての関係者が、この思いを固く胸に抱き、信念を持って業務に取り組んでいます。

いつ何時、誰に見ていただいても、ご納得いただける家づくりを、お客様に心からご満足いただき、いつまでも快適に住んでいただける家づくりを。

ゼロの「公開」と100年住宅の高い品質は、これらの多くの関係者の高い意識により、実現しているのです。

ゼロは、建築現場をいつでも公開しています。お客様は、いつでもゼロの建築現場を訪れていただき、現場の様子や工事の内容をご確認いただくことができます。また、各現場に担当現場監督と大工の写真をお名前入りで必ず表示し、現場に問題があれば、お客様からダイレクトにご指摘をいただく体制も整えております。

※現場の状況により、一部公開できない場合があります。

この家は私たちの自慢作です

建築現場とその担当者を「公開」しています

ゼロは、ホームページ上建築工程を写真入りで掲載・解説しています。また、ゼロが建築した住宅ご購入いただくお客様には、建築の標準仕様を定めた「標準モデル」図面集をお渡ししております。

（一部オリジナル工法部分を除きます。完成後上を）

これらと見比べながら、建物のご確認を徹底してください。更にお引渡時にも、建築工程の必要要素を撮影した写真もお渡しいたします。

各種会議で検証と改善を行っています

ゼロでは、ゼロの品質づくりに関わる様々な部署や関係者ごとに、月に15回を超える定期的な会議やミーティングを行っています。これらの会議の実施により、現場や住宅づくりの問題点はリアルタイムに検証・認識され、決定事項は迅速にすべての関係者に伝わり、実行されていきます。ゼロは、全部署全関係者が一体となり、品質づくりに取り組みんでいます。

クレームとアンケートを「公開」しています

ゼロでは、お客様からご連絡いただいたクレームの記録を、何の調整も変更も公開しております。また、住宅ご購入から3カ月後は、満足度をお伺いするお客様アンケートを送付し、その返信を原紙のままホームページ上に公開しております。これらのデータ公開は、お客様が正当にお住まいや住宅会社を選ぶための重要な要素であると考えております。

建築工程と標準モデルを「公開」しています

ゼロは、ホームページ上建築工程を写真入りで掲載・解説しています。また、ゼロが建築した住宅ご購入いただくお客様には、建築の標準仕様を定めた「標準モデル」図面集をお渡ししております。

（一部オリジナル工法部分を除きます。完成後上を）

これらと見比べながら、建物のご確認を徹底してください。更にお引渡時にも、建築工程の必要要素を撮影した写真もお渡しいたします。

この家は私たちの自慢作です

建築現場とその担当者を「公開」しています

ゼロは、建築現場をいつでも公開しています。お客様は、いつでもゼロの建築現場を訪れていただき、現場の様子や工事の内容をご確認いただくことができます。また、各現場に担当現場監督と大工の写真をお名前入りで必ず表示し、現場に問題があれば、お客様からダイレクトにご指摘をいただく体制も整えております。

※現場の状況により、一部公開できない場合があります。